

## 修士論文の内容要旨

【分 野】 統合保健看護科学

【題 名】

母親の年齢と出産経験が人工栄養の選択に及ぼす影響に関する検討

(Effects of maternal age and parity on formula milk)

生命育成看護科学講座 横山優美

【目 的】

本研究では、人工栄養と、母親の年齢および出産経験、ならびにその他の要因との関連を明らかにすることで、今後の母子保健における効果的な支援の在り方を検討する基礎的資料とする目的とした。

【方 法】

本研究は、「生誕 1000 日見守り研究」の一部として実施されているアプリケーション内の自記式質問票によるコホート研究のうち、個人情報をすべて除外した第 1 回調査のデータの一部を用い、第 1 回調査の回答者 1063 名より妊娠期の 256 名を除いた、育児期の回答者 807 名から、出産回数が 1 回と回答したにもかかわらず、アンケートの対象となる子どもの出生順位を 2 番目以降と回答し、回答に齟齬のみられた 3 名を除いた。したがって、本研究では、804 名を分析の対象とした。

調査期間は、第 1 次募集が 2020 年 1 月 30 日～2 月 12 日、第 2 次募集が 2020 年 2 月 27 日～3 月 15 日である。分析に用いた主なデータは、調査時の母親の年齢、産後の調査時期、出産回数、授乳期の栄養方法等である。

【結 果】

人工栄養を従属変数とした多変量ロジスティック回帰分析の結果、人工栄養と母親の年齢および出産経験に有意な関連はみられなかった。一方、人工栄養に影響を及ぼしていた要因は、産後の調査時期、睡眠の質、夫の家事協力であった。これら 3 つの要因に関しては、産後の時間の経過とともに人工栄養の割合が増加し、睡眠の質がわるい母親に比べ睡眠の質がよい母親は人工栄養の割合がより高く、さらに人工栄養の割合は夫の家事協力がある母親に比べ夫の家事協力がない母親でより高かった。

【結 論】

人工栄養と母親の年齢および出産経験に明らかな関連はみられなかった。人工栄養に関連する要因は、産後の調査時期、睡眠の質、夫の家事協力の 3 つであり、産後の時間が経過するほど人工栄養の割合が増加し、睡眠の質がよい母親、ならびに夫の家事協力のない母親で、人工栄養の割合が高かった。